

第2回 西胆振地域づくりビジョン懇談会

日 時：平成20年12月1日(月)

14:00～

場 所：西いぶり広域連合 会議室A

次 第

1 開 会

2 挨拶 西いぶり広域連合事務局長

3 議 事

「報告事項」

(1) 西胆振地域づくりビジョンアンケート及びヒヤリング回答について

「協議事項」

(1) ビジョン素案への意見

(2) ビジョンに加えるべき事項について

4 閉 会

西胆振地域づくりビジョン 地域関係機関アンケート結果 アンケート結果にみる地域ビジョンの方向性

◎市町の強み・特徴ある取り組み・課題や将来的な不安についての主な回答

【室蘭市】

強み・特徴ある取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○北海道経済を牽引する鉄鋼や石油精製などの産業が特色 ○工業大学や試験場などの研究機関も多く、技術力向上が図りやすい ○医療面で大規模施設を多く保有しており、西胆振の医療拠点となっている
課題・将来的な不安	<ul style="list-style-type: none"> ○人口の減少だけでなく、地域に人が出てこないことが問題 ○フェリー航路全廃などの影響により、港湾の活力低下が懸念される ○中小企業の技術力の衰退（企業の技術・経営の継承）

【登別市】

強み・特徴ある取り組み	○登別温泉を軸とした観光資源が特徴で、関連して産業活動やまちづくり活動も盛んに行われており、ネットワークが構築されている
-------------	--

【伊達市】

強み・特徴ある取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○気候が温暖で、市外・道外からの移住が多い ○農水産資源が豊富で、食のブランド化に期待がかかる ○福祉環境が充実しており、安全・安心なまちづくりが図られている
課題・将来的な不安	<ul style="list-style-type: none"> ○退職移住者が要介護等になったときの受け皿 ○まちづくり等へ参加する若者の減少

【豊浦町】

強み・特徴ある取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○養豚、いちご、ホタテなど、ブランド化が進む一次産品を保有 ○キャンプ場や海水浴場などレジャー施設が豊富
課題・将来的な不安	<ul style="list-style-type: none"> ○少子高齢化が進む中で、医療や福祉面での環境に不安 ○地域が1つになった場合の格差に対する不安

【壮瞥町】

強み・特徴ある取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○洞爺湖、有珠山などの地域資源を活かした観光に期待 ○有珠山噴火を乗り越えてきた防災ノウハウと住民のバイタリティー
-------------	--

【洞爺湖町】

強み・特徴ある取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○温泉と豊かな自然を資源とした観光のまち ○サミットによる知名度向上でさらなる観光客誘致に期待
課題・将来的な不安	<ul style="list-style-type: none"> ○通過型観光が主体（滞在型観光へシフトさせていく必要がある） ○周辺市町が合併した場合の、都市集中化に対する懸念

【すべての市町の共通の課題・将来的な不安】

課題・将来的な不安	<ul style="list-style-type: none"> ○人口の減少 ○少子高齢化 ○財政難 ○若者の域外流出（雇用環境の悪化） ○一次産業の就業者の減少（後継者問題）
-----------	--

◎西胆振地域が一つになった場合の発展可能性や期待されること（主な回答）

①「地域のイメージアップと総合的な活力の強化」

- それぞれの地域資源を共有し、最大限活用することが可能となる。
- そのためには各市町、団体、市民が協調・協働し、相互理解を深めていくことが必要。

②「広域的なまちづくりの推進」

- 各地方の良さを活かしつつ、地域全体の意思統一を図ることが重要
- 具体的には、保有施設の共有使用や、幹線整備による各地域のアクセス向上などが挙げられている
- 広域的なネットワークを組織化していくべき（合併、広域連携）

③「産業連携、新産業創出の推進」

- 西胆振には多様な産業が展開しており、各地域の基幹産業を生かしつつ、地域全体で広域的な取り組みが可能となる
- 中核となる市町を旗頭に地域全体のブランド力が底上げされる
- 農水産業と工業との連携による商品開発や製造機械開発、観光・歴史文化産業と他産業との連携による観光経済の活性化などに期待
- 多様な産業の存在により、子どもへの教育の場としての活用にも期待
- 一方で、地域産業をゾーニングすることに対する懸念の声もある

④「広域観光の促進」

- 観光資源情報を集約し、それぞれの個性を生かしつつ、広域的な観光プログラム開発を行うべき（温泉、自然、産業、文化、歴史、食等資源が豊富）
- 農水産業、工業等との連携による地域商品開発等も重要
- 通過型観光から滞在型観光への転換が必要
- 豊かな自然環境を守りながら、それを活用するエコミュージアムの取り組みなども展開
- そのためには、西胆振全体の観光プロモーションを主導できるような横断型の組織が必要
- 横断組織主導のもとで、プログラム開発やPR活動の展開、商品開発を通して、地域の観光力向上、ブランド化を進めていくことが重要
- 地産地消等を含めた地域内での努力も必要であり、意識啓発を積極的に進めていくことが重要

⑤「移住定住」

- 気候や風土などの環境が良く、移住定住に向いている
- 各市町の連携と情報発信強化を行っていくべき
- 若年層の定着に向けては産業強化が重要だが、高齢者に特化する道もある

⑥「労働・雇用の場の創出」

- 就業場所の拡大や人材の確保・育成に期待
- 産業基盤の強化や人材および情報の交流を積極的に図っていく必要がある

⑦「安心・安全のまちづくりの推進」

- 一つになることで地域全体で同レベルの福祉サービス提供が可能となる
- 福祉サービスの統一には、地域ごとにすべき事業と統一すべき事業とに分けた上で、それぞれ運営可能な人材確保と意思統一の方法の検討が必要
- 各地域の温泉は、医療・福祉面への活用が期待される
- 地産地消の取り組み推進も、安心・安全のまちづくりに貢献

⑧「地域（各まち）が受け持つ役割」

※ゾーニングを参照

⑨「行財政の効率化」

- 行政の簡素化・効率化による経費圧縮に期待
- 得意分野に重点を置いた資金配分により、地域全体でのバランスを重視しつつ、地域ごとの特色を伸ばすことが重要
- 財政的には効率化になっても、地域の自己裁量が損なわれるとの懸念もある
- 住民には、負担増も含め、行政に頼らない意識が必要となる

◎西胆振 6 市町が一つになった場合に各市町が中心となって担うべき役割

【回答結果（単位：件、回答団体数：64 件、有効回答数：43 件）】

	農業	林業	水産業	工業	商業	観光業	医療	福祉	教育
室蘭市	2	2	18	36	30	8	33	16	30
登別市	2	4	21	6	20	35	15	14	16
伊達市	35	22	18	3	26	10	26	29	17
豊浦町	28	17	36	1	6	15	5	18	13
壮瞥町	31	14	1	1	6	27	6	15	13
洞爺湖町	21	6	19	1	7	35	9	16	14

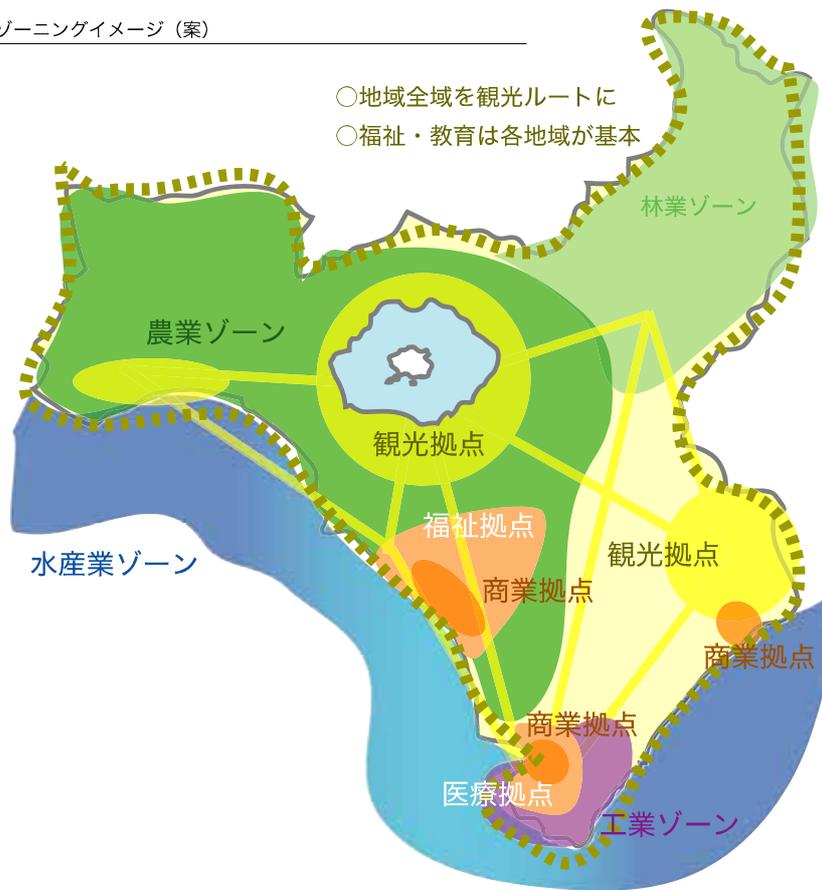
注：濃いオレンジ色→回答数 30 件以上

薄いオレンジ色→回答数 20 件以上 30 件未満

薄い黄色 →回答数 10 件以上 20 件未満

- 【農業】伊達市、壮瞥町、豊浦町が中核、洞爺湖町も一定の役割を担う
- 【林業】伊達市（大滝地区）が中核も地域を支える産業とはなりにくい
- 【水産業】豊浦町が中核、壮瞥町を除く他の市町も一定の役割を担う
- 【工業】室蘭市が地域における工業の中核
- 【商業】室蘭市を中核としつつ、市部が一定の役割を担う
- 【観光業】中核は登別市、洞爺湖町、壮瞥町、豊浦町にも観光資源あり
- 【医療】市部に集約、室蘭市と伊達市が中核となり地域医療を牽引
- 【福祉】各市町が地域福祉を担いつつも、伊達市が福祉拠点
- 【教育】教育も各地域が取り組むべきものだが、高等教育等は室蘭市が核となる

ゾーニングイメージ (案)



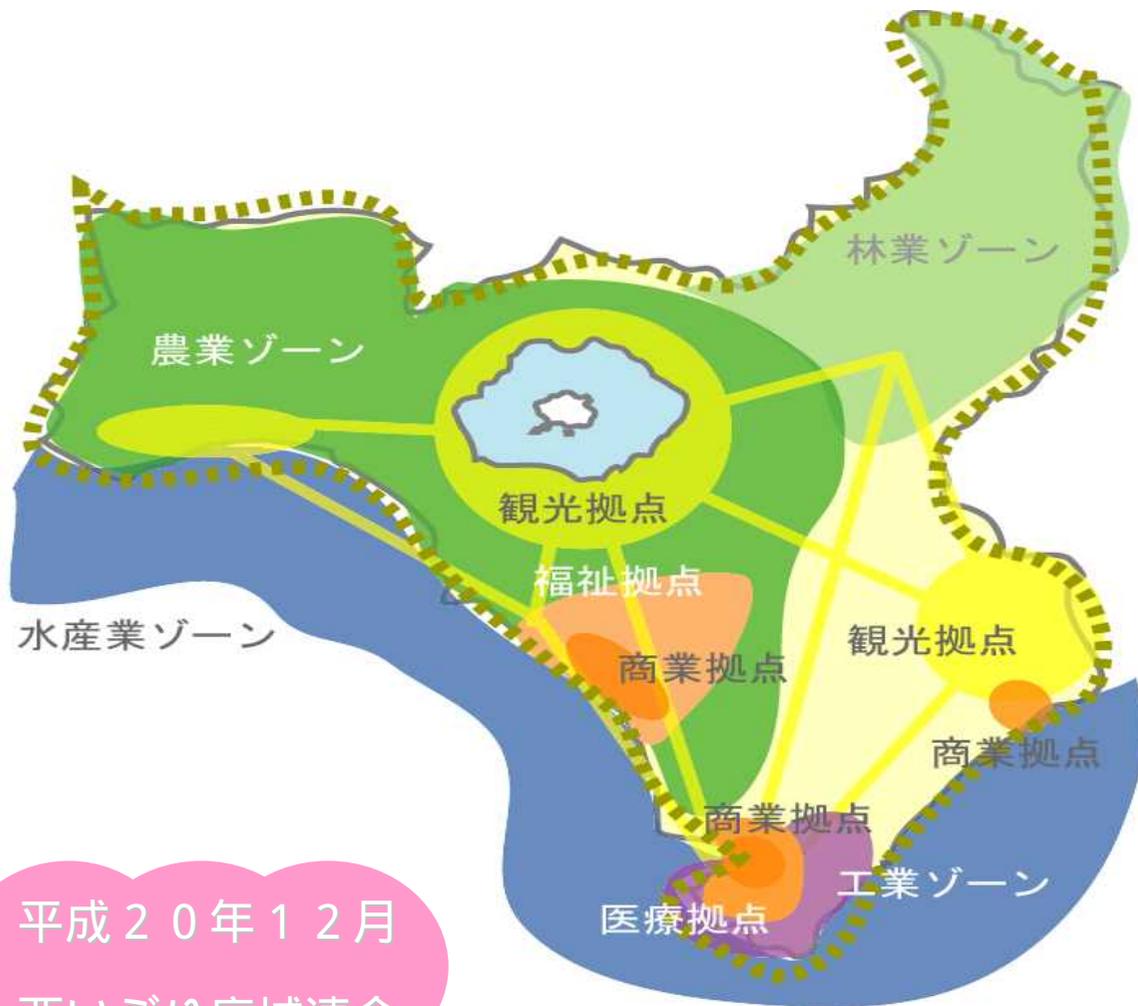
◎西胆振 6 市町が一つになった場合、地域全体で配慮すべきと思われること

- 都市部偏重にならないよう、地域間のバランスを重視する必要がある
- 特に過疎地域で住民サービスの低下が起こらないよう配慮が必要
- それぞれの地域が個々の利得に固執せず、地域全体を考慮した調整を図れることが重要で、そのためには相互理解が不可欠
- 住民に対してしっかりとした説明を行い、理解を得ることが重要
- 各地域が持っている文化や歴史、特長を尊重し、独自性を損なわない配慮が必要

区分	室蘭市	登別市	伊達市	豊浦町	壮瞥町	洞爺湖町
商工 関連	室蘭商工会議所	登別商工会議所	伊達商工会議所	豊浦町商工会	壮瞥町商工会	洞爺湖町商工会
観光 関連	室蘭観光協会	登別観光協会	だて観光協会	NPO法人豊浦観光ネットワーク	NPO法人そうべつ観光協会	洞爺湖温泉観光協会 NPO洞爺まちづくり観光協会
農業				とうや湖農協		
漁業	室蘭漁協	いぶり中央漁協	いぶり噴火湾漁協			
			洞爺湖漁協			
医療	室蘭市医師会		胆振西部医師会			
福祉	室蘭市社会福祉協議会	登別市社会福祉協議会	伊達市社会福祉協議会	豊浦町社会福祉協議会	壮瞥町社会福祉協議会	洞爺湖町社会福祉協議会
教育 関連	室蘭市PTA連合会	登別市PTA連合会		豊浦町PTA連合会	壮瞥町PTA連合会	洞爺湖町PTA連合会
	室蘭市体育協会	登別市体育協会	伊達市体育協会	豊浦町体育協会	壮瞥町体育協会	洞爺湖町体育協会
	室蘭文化連盟	登別市文化協会			壮瞥町文化協会	洞爺湖町文化団体協議会
町内会 関連	室蘭市連合町会協議会	登別市連合町内会	伊達市連合自治会協議会	豊浦町自治会連合会	壮瞥町連合自治会	洞爺湖町自治会連合会
その他	登別室蘭青年会議所		伊達青年会議所	洞爺青年会議所		
	室蘭テクノセンター	登別市市民自治推進委員会		豊浦本町市街地まちづくり協議会	そうべつエコミュージアム友の会	
	まちづくりネットワーク	日本工学院北海道専門学校				
私立 高校	海星学院高校	登別大谷高校				
	室蘭大谷高校					

西胆振地域づくりビジョン

第 2 回 懇談会資料



平成20年12月
西いぶり広域連合

地域づくりビジョンの策定について

1. 地域づくりビジョン策定の背景と目的 P.1
2. ビジョンの特色 P.2
3. 地域を取りまく時代の潮流 P.3

西胆振地域の現状

1. 人口・産業構成・財政 P.4
2. 農業 P.5
3. 水産業 P.6
4. 製造業 P.7
5. 商業 P.8
6. 観光 P.9
7. 医療 P.10
8. 福祉 P.11
9. 教育 P.12

地域づくりビジョンの策定について

1. 地域づくりビジョン策定の背景と目的

全国的な背景

- ・平成18年に地方分権改革推進法が成立し、平成19年4月から施行された。
- ・今後、一層地方分権が進み、市町といった基礎自治体が果たすべき役割はさらに大きくなる。
- ・今後、基礎自治体は、住民に最も身近な行政主体として、権限、財源、人材の3要素の充実・強化が必要。
- ・地域住民が将来にわたって、これまでと同様の行政サービスの提供を受け続けるためには、
個々の自治体の行財政基盤が今のままで維持できるのか？
行政事務や施設整備などの広域連携だけで、効率的な行政サービスの提供を継続していくことができるのか？

西胆振の背景

- ・平成18年11月に開催された西胆振地域連携フォーラムにおいて、西胆振（室蘭市、登別市、伊達市、豊浦町、壮瞥町、洞爺湖町）の6市町長は「将来、西胆振は一つ」という共通認識を持った。
- ・しかし、合併したばかりのまちや合併の協議が整わなかったまちなど、それぞれのまちが置かれている状況から、その時期については温度差を抱えたままとなっている。

策定の目的

- ・本地域づくりビジョンは、西胆振圏域の将来の発展に繋がるまちづくりのあり方として、「西胆振は一つ」のもと、6つのまちが一つになった場合に各市町の特性を活かし、どんなまちづくりが可能であるかなど、住民が将来のまちの姿について考えることができる資料の作成を目的としている。

2. ビジョンの特色

6市町の強みを活かし、地域全体が発展する視点を踏まえる

- ・西胆振は一つという共通認識においては、これまで全国的な合併を問う場合に往々にして、人口減少、少子・高齢化、財政の逼迫といった行政側の見方や、特定地域（自分のまち）の見方に偏った意見とは違った見方で地域全体の発展を考える必要がある。
- ・そこで、6市町それぞれの強みを活かしながら、地域資源と人材が地域内で循環・連携して地域全体が発展するビジョンを作成する。

他圏域とは異なる西胆振らしいビジョンとする

- ・6市町の地域の強みを加味し、地域の環境・資源・人材等を十分に把握して、札幌圏をはじめ他地域とは異なる西胆振地域らしい地域づくりビジョンを考える。
- ・とくに産業連携・新産業創出、広域観光の促進、労働・雇用の場の創出、地域（各まち）が受け持つ役割など重点をおき検討する。

住民が将来の西胆振のまちの姿を考えるための資料とする

- ・本ビジョンは、住民が将来の西胆振地域の姿を考えるための資料とする。
- ・本ビジョンで示される西胆振を一つと考えた場合の可能性を通して、各地域で将来のまちの姿を議論していただくことを期待する。

3 . 地域を取りまく時代の潮流

人口減少と高齢社会

- ・西胆振の人口は、平成2年の23.3万人から平成17年には20.8万人と減少傾向。今後も減少が見込まれる。
- ・平成17年の高齢化率は26.2%と、全国20.1%、北海道21.4%と比較して高い。今後も上昇が見込まれる。
- ・人口減少・高齢化社会を迎え、今後、地域生産力の低下、コミュニティ機能の低下、医療や福祉を始めとするセーフティネット機能の低下、税収の減少や社会保障費の増加など急激な社会構造の変化が予測される。

経済・雇用の不透明感

- ・西胆振は、製造業の就業者割合が12.0%と、北海道の8.4%と比較して高い。
- ・アメリカ発の世界的な経済不況により、製造業でも経済・雇用環境が悪化する恐れがある。
- ・経済の低迷から脱却するために、工業をはじめ、食産業や観光とこれらを支える農林水産業など西胆振の特色ある産業の活性化を図りながら、従来までの経済特性とは異なる産業構造の構築が求められている。

自治体の財源不足と地域主権型社会への移行

- ・国の三位一体改革による地方交付税の削減や市町債の償還費の増加、経済の低迷による税収の落ち込み等の影響により、近年の自治体の財政状況は厳しく事業の見直しや行財政システムの再構築が進められている。
- ・国依存ではなく、住民一人ひとりや自治体が自ら主体的に考え決断・行動する地域主権型社会へ移行が必要。そのための方策として、道州制の推進やそれに伴う国や道からの事務権限の移譲などが進められる。

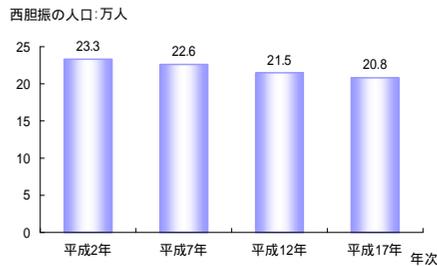
西胆振地域の現状

1. 人口・産業構成・財政の現状

西胆振を1つとしてみた場合の人口と財政の特徴についてとりまとめた。

人口の現状

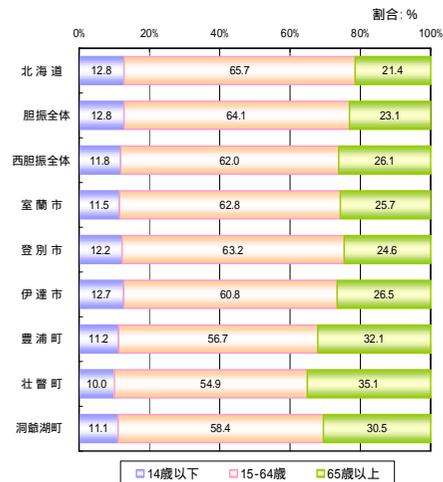
西胆振の人口は、平成2年の23.3万人から平成17年には20.8万人と減少傾向。今後も減少が見込まれる。



資料：総務省「国勢調査」。

西胆振の平成17年の高齢化率は26.2%と、全国20.1%、北海道21.4%と比較して高い。今後も上昇が見込まれる。

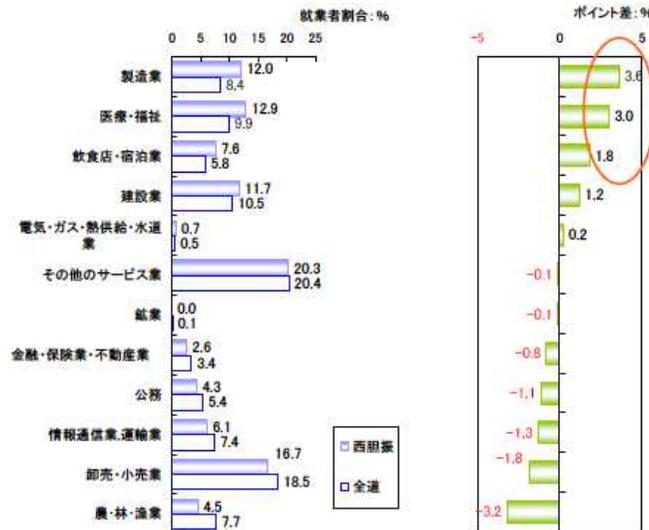
西胆振の年齢階層別人口(平成17年)



資料：総務省「平成17年国勢調査」。
注：年齢不詳人口を除くため、合計が100にならない場合がある。

産業構成の現状

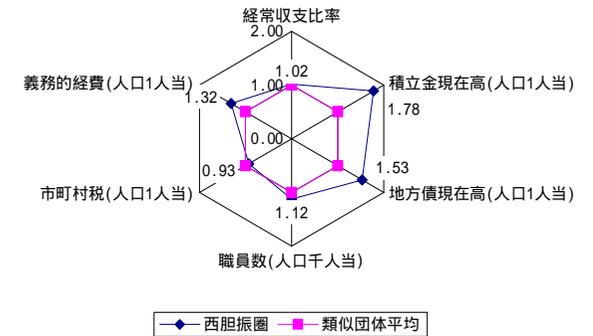
西胆振全体としてみた場合、全道と比較して、製造業、医療・福祉、飲食店・宿泊業のウエイトが高い点が特徴。



資料：総務省「平成17年国勢調査」。

財政の現状

西胆振の平成17年度の財政状況(6市町平均)についてみると、類似団体と比較して、地方債現在高、義務的経費等が高い一方、市町村税は低い状況にある。



平成17年度決算数値

資料：西胆振圏の将来を考える研究会報告書(平成20年3月)。

2. 農業の現状

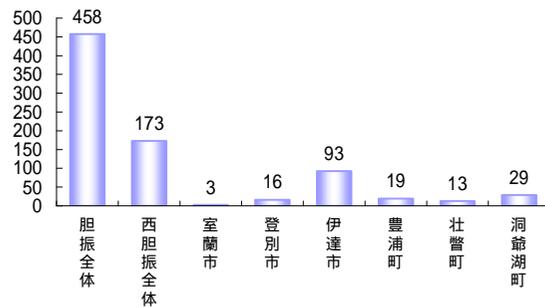
西胆振の農業生産の現状と特徴的な取り組みについてまとめた。

農業の現状

西胆振全体としてみた場合、全道と比較して野菜のウエイトが高い点が特徴。

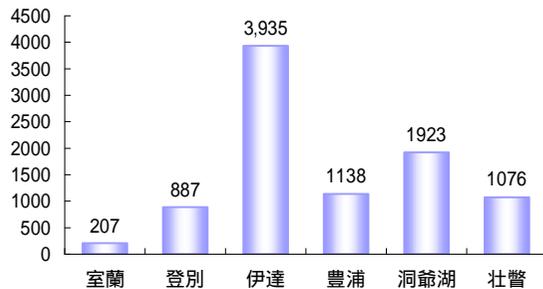
個別市町の観点からみると、農業産出額、経営耕地面積ともに伊達市のウエイトが高い。

農業産出額: 億円

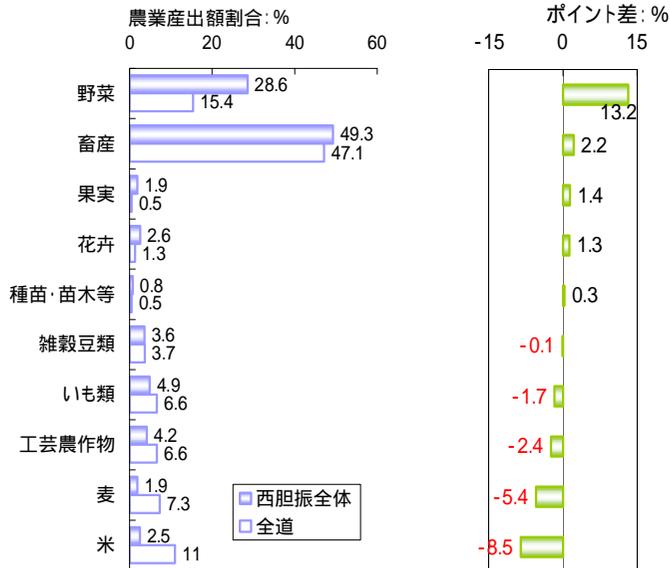


資料：北海道統計協会「平成19年北海道市町村勢要覧」。
注：数値は平成17年値。

経営耕地面積: ha



資料：農林水産省「2005年農林業センサス」。



資料：北海道農林統計協会「北海道農林水産統計年報(農業統計市町村別編)」。
注：数値は、平成18年農業産出額より算出。

特徴的な取り組み

JA 伊達市や JA とうや湖ではクリーン農業への取組を積極的に展開。



洞爺湖を囲む管内は、クリーン農業をはじめ環境に配慮した取り組みが多い。

新たな取り組み状況



雪蔵による野菜の保存による鮮度の高い野菜の提供。

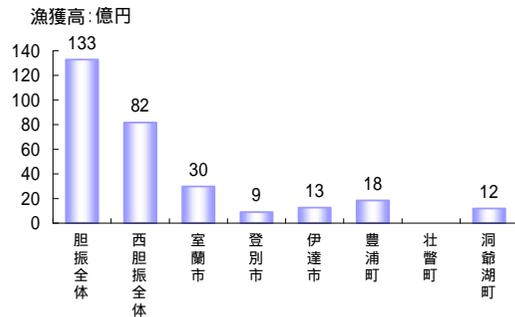
野菜加工品としてトマト「籐五郎」を100%使用したジュースを販売。



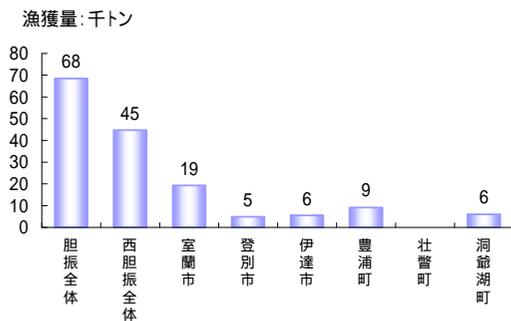
3. 水産業の現状

西胆振の水産業の現状と特徴的な取り組みについてまとめた。

水産業の現状



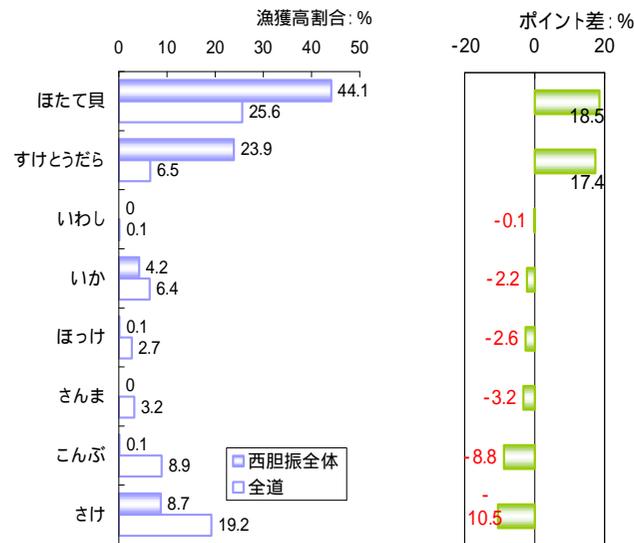
資料：北海道統計協会「平成19年北海道市町村勢要覧」。
注：数値は平成17年値。



資料：北海道統計協会「平成19年北海道市町村勢要覧」。
注：数値は平成17年値。

西胆振全体としてみた場合、全道と比較して、ほたて貝、すけとうだらの割合が高い点が特徴。

個別市町の観点からみると、室蘭市、豊浦町の順で漁獲量が多い。



資料：北海道統計協会「平成19年北海道市町村勢要覧」。

特徴的な取り組み

作り育てる漁業、総合学習授業の実施など安全な水産物の供給に向けた取組が進展。

【特徴的取り組み】

産地市場の衛生管理に配慮した取組を実施している。漁港整備にあたっても同様の考え方をもって要請実施している。広域的には、マツカワカレイのブランド化事業に取り組んでいる。沖合漁業と沿岸漁業が共存クロソイ、ウニ等をはじめとする「作り育てる漁業」の実施小学校、中学校を対象とした総合学習授業の実施町が手厚い行政指導で対応してくれている。(洞爺湖町)

【他団体との連携の現状】

壮瞥町の組合員、洞爺湖町の組合員など、広域の組合構成なので、それぞれの他団体との連携があり、特にそれ以上は望めない。

噴火湾では、ホタテ貝の養殖やマツカワの育成栽培に取り組んでいる。

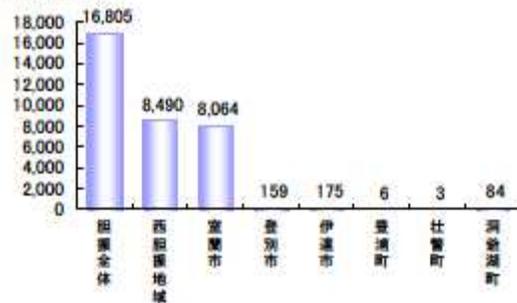


4 . 製造業の現状

西胆振の製造業の現状と特徴的な取り組みについてまとめた。

製造業の現状

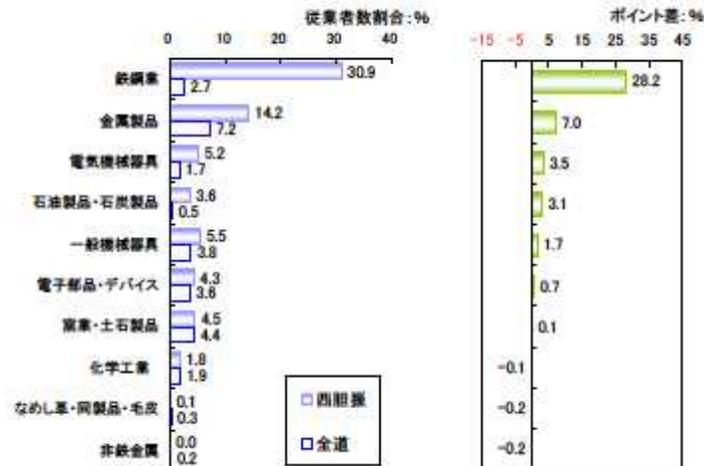
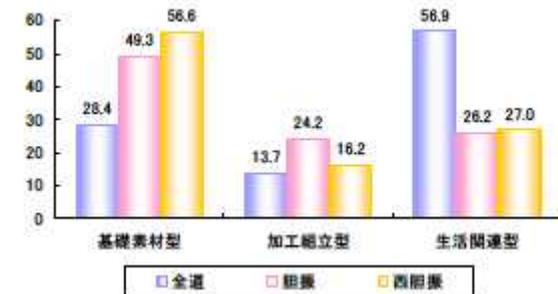
出荷額:億円



西胆振全体としてみた場合、全道と比較して鉄鋼業のウエイトが高い。
室蘭市に隔たっている。
基礎素材型の産業特性をもつ点が特徴。

資料：北海道統計協会「平成19年北海道市町村勢要覧」。
注：数値は平成17年値。
社管町、洞爺湖町は秘匿値のため従業者数から推計。

製造業従業者数割合:%



資料：経済産業省「平成17年工業統計調査」。
注：産業分類は、平成17年工業統計調査に基づき以下のように分類した。
基礎素材型産業・・・木材・木製品、パルプ・紙、化学、石油・石炭、プラスチック、ゴム、窯業・土石、鉄鋼、非鉄、金属製品
加工組立型産業・・・一般機械、電気機械、情報通信機械、電子・デバイス、輸送用機械、精密機械
生活型産業・・・食品、飲料・たばこ、繊維、衣服、家具・装備品、出版・印刷、なめし革

資料：経済産業省「平成17年工業統計調査」。

特徴的な取り組み

工業は室蘭市を中心に「ものづくりの町」として発展してきた歴史がある。

特に、鉄を中心に最先端の技術が蓄積されている。

室蘭はものづくりのまちとして製鉄・製鋼の長い歴史があり、基幹産業として室蘭の経済を支えてきて、工場見学の歴史も継続している。

最近、あらためて工場見学としての産業観光が推進されている他、鉄であるボルト・ナット・ビス等を使用してボルトという人形キャラクターが開発され、お土産品として人気が高く、また、この製作体験ができるなど、鉄の町をPRしている。

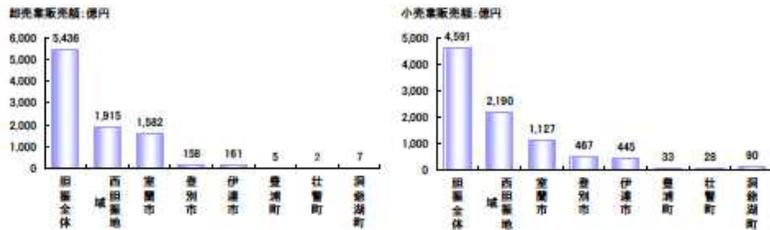
鉄を中心に最先端の技術が創造され、これを維持する技術者・技能者づくりに各企業、大学等、行政が協力し連携している。

5 . 商業の現状

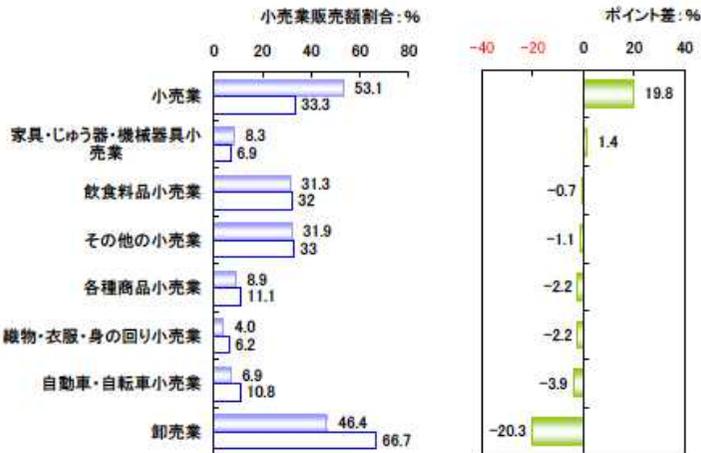
西胆振の商業の現状と特徴的な取り組みについてまとめた。

商業の現状

西胆振全体としてみた場合、全道と比較して、小売業のウエイトが高い点が特徴。



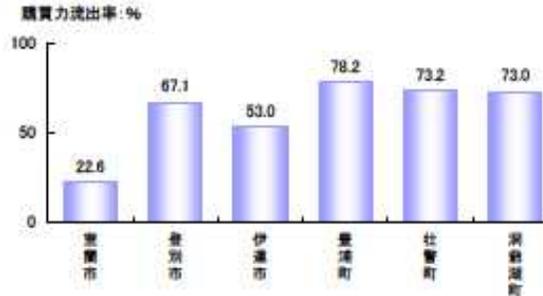
資料：北海道統計協会「平成19年北海道市町村勢要覧」.
注：数値は、平成16年6月1日時点の値。



資料：北海道統計協会「平成19年北海道市町村勢要覧」.
注：数値は、平成16年6月1日時点の値。

購買力の流出状況

6市町の購買力は流出傾向。特に室蘭市以外の市町では流出率が高い。



資料：経済産業省「商業統計」(H16年6月1日).
注1：総人口については5月末時点の住民基本台帳人口を使用。
注2：購買力流出率 = (1 - 購買力流入比率) × 100。
購買力流入比率については下記説明を参照。

特徴的な取り組み

大型商業施設「MORUE (モルエ) 中島」がオープンする(2007年)など、地域の商業活動が変化。

【商業】

地域ブランドの確立。
全市統一年末大売出しの実施。
大型店の元日閉店に向けた取り組み。

【サービス】

PCB 廃棄物処理事業の地域密着による事業推進(室蘭協会の設立)
TMO事業
ライフモビリティ事業(乗り合いタクシー事業)、
商工会事業で、葬儀場を開設。
むろらん広域センタービル建設事業の推進。

【連携、支援体制】

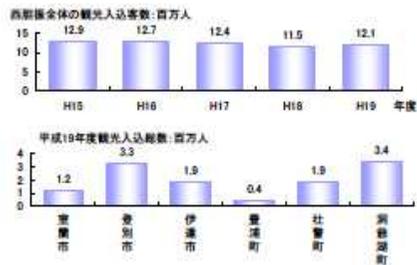
商工業者に対し支援制度が確立している。
商工会議所間では年2~3回の連絡会議を開催
商工会連合会を介し年1回、胆振・後志管内商工会との情報交流会の実施。
伊達・登別商工会議所の3商工会議所では政策要望の調整として年1回広域経済開発懇談会を開催している。また、合同の正副会頭会議を年2回程度開催し、そのうち1回は西胆振の商工会の正副会長を含め開催している。

6 . 観光の現状

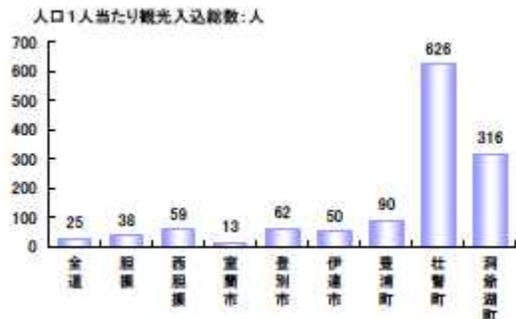
西胆振の観光の現状と特徴的な取り組みについてまとめた。

観光客の現状と特徴

西胆振全体としてみた場合、全道と比較して、人口千人当たり観光入込客数が多い点が特徴。洞爺湖町、壮瞥町は人口に対して多くの観光客が入ってきている。



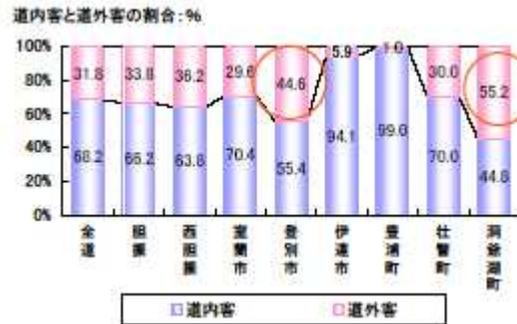
資料：北海道経済部「観光入込客数調査報告書」



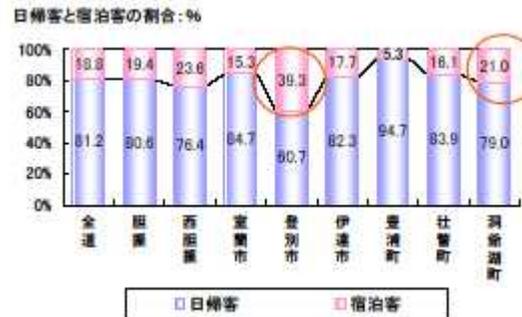
資料：北海道経済部「平成19年度観光入込客数調査報告書」。
注：人口1人当たり観光入込客数 = 観光入込客数 ÷ 総人口。
総人口には住民基本台帳の平成20年3月末人口を使用。

観光客の属性

西胆振全体としてみた場合、全道と比較して、道外客、宿泊客の割合が高い点が特徴（特に、登別市、洞爺湖町）



資料：北海道経済部「平成19年度観光入込客数調査報告書」。



資料：北海道経済部「平成19年度観光入込客数調査報告書」。

特徴的な取り組み

洞爺湖を中心とした体験型の観光の取り組みが特徴。

【取り組み】

藍染め、勾玉作りを中心とした体験型観光（伊達市）
道の駅・海浜公園・キャンプ場等指定管理者として運営中。食の安全と開発を目的に“まるごと豊浦・北の収穫祭”を企画実行。新商品の開発。（豊浦町）
カヌー、乗馬、フットパス等散策といった自然を活用したアクティビティ（洞爺湖町）
洞爺湖マラソン、北海道ツーデマーチ、洞爺湖ぐるっと彫刻公園、洞爺湖ロングラン花火大会（洞爺湖町）
キャンプ、水上バイク客の受け入れ、カヌー体験ハウスの管理委託（洞爺湖）
観光情報の提供発信、地場産品の物販事業。（洞爺湖）
インバウンドアウトバウンド。特に、地域の情報を発信、PRする事や景観の向上に向けた取り組み

【他市町との連携の現状】

物産展を通じた観光PRや観光プロモーション。観光ルネサンス事業（洞爺湖町、壮瞥町）。イベント等の協力。
西胆振戦略的観光推進協議会が設置され、今まで独自でしかやれなかったことが変わり、他地域で知り、広くPRできるため、非常に効果的である。

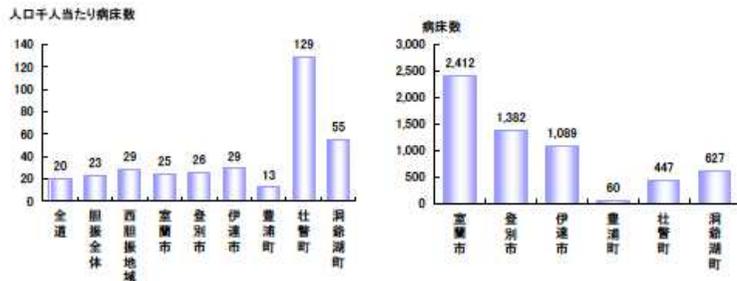
7. 医療の現状

西胆振の医療の現状と特徴的な取り組みについてまとめた。

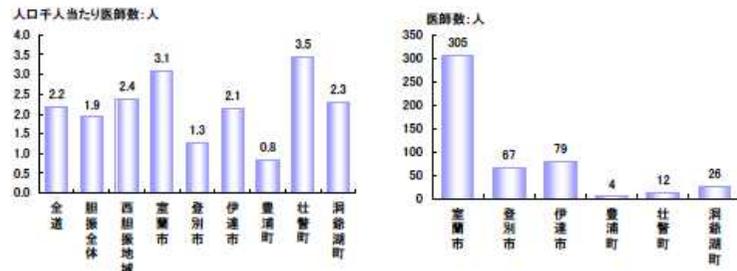
医療の現状と特徴

人口千人あたり病床数、医師数は、西胆振全体としてみた場合、全道と比較して高い水準。
医療体制は道内各地に比較し充実している。

【病床数】



【医師数】

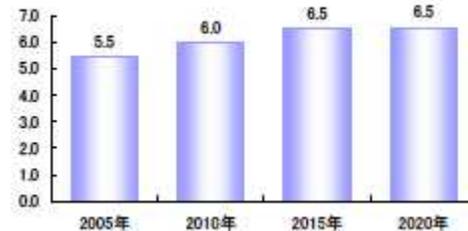


資料：北海道統計協会「平成19年北海道市町村勢要覧」。
注：病床数はH17.10.1、医師数はH16.12.31現在。

高齢人口の将来予測

西胆振の高齢人口は2020年には6万5千人に増加する見通し。

高齢人口:万人

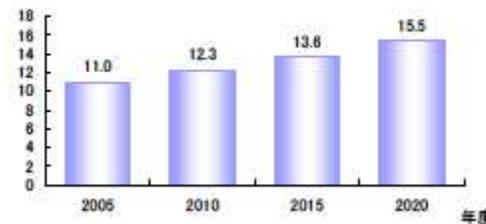


資料：北海道未来総合研究所「北海道180市町村の人口シミュレーション」。
注1：高齢人口は65歳以上人口。
注2：2010年以降はコーホート要因法による予測値。

高齢化と医療需要予測

高齢化の進展によって、医療需要が増加することが見込まれる。

人口1人当たり保健医療費:万円



資料：北海道「道民経済計算年報」「住民基本台帳」を用いて推計。
注：2010年以降は予測値。数値は全道の値で、名目値。

特徴的な取り組み

北海道医療計画で西胆振は第2次医療圏に指定されている。

2次救急を担当する病院
市立室蘭総合病院、日鋼記念病院、新日鉄室蘭総合病院、大川原脳神経外科病院、登別厚生年金病院、伊達赤十字病院、協会洞爺病院の7つ

【救急医療体制】

勤務医の過重労働、訴訟リスクの増大、時間外医療への患者さんの過剰な期待、軽症患者の救急利用など問題は山積しており、開業医の時間外医療への参加も視野に入れた救急医療体制の構築を検討している。

【周さん期医療体制】

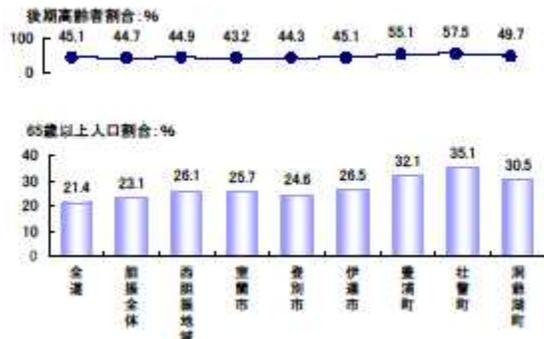
市立病院と札幌医大産婦人科教室の尽力で維持が可能となり、医療資源（施設、医師、看護師、助産師）の集約化の第一歩となった。

8 . 福祉の現状

西胆振の福祉の現状と特徴的な取り組みについてまとめた。

福祉の現状と特徴

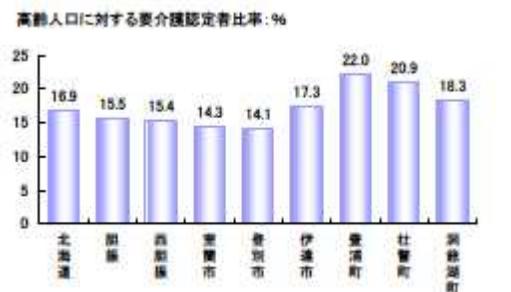
西胆振の高齢化率（65歳以上人口割合）は、全道と比較して高い水準。



資料：総務省「国勢調査」。

注1：数値は平成17年10月現在の値。

注2：後期高齢者割合は65歳以上人口に占める75歳以上人口の割合。



資料：厚生労働省「介護保険事業状況報告」（平成19年3月末現在）。

注：高齢人口に対する要介護認定者比率

= (要介護認定者総数 ÷ 65歳以上人口) × 100。

高齢人口の将来予測

西胆振の後期高齢者人口は2020年には3万5千人に増加すると見込まれる。

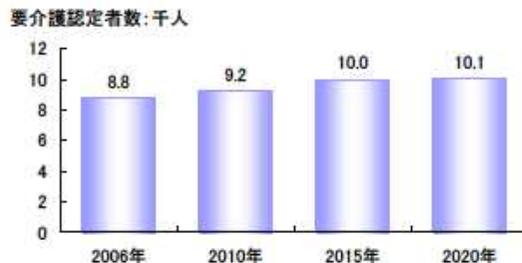


資料：北海道未来総合研究所「北海道180市町村の人口シミュレーション」。

注1：2010年以降は予測値。

注2：後期高齢者割合 = (75歳以上人口 ÷ 65歳以上人口) ÷ 100。

高齢者の増加に伴い要介護認定者数も増加が予想される。



注1：2010年以降は予測値。

注2：予測値は、65歳以上人口に対する要介護認定者総数の比率が平成19年値(0.154)で推移した場合の推計値。

特徴的な取り組み

ウェルシーランド構想：伊達市

高齢者が安心・安全に生活することができるまちづくりを進めるとともに、高齢者の求めに応える新たな生活産業を創り出し、働く人たちの雇用を促進して、豊かで快適な活力ある暮らしを官民一体となり実現しようとする施策。

プライム・ヘルシータウン構想：伊達市

温暖な気候と豊かな自然環境を活かし、高齢社会に対応した健康福祉型都市づくり。

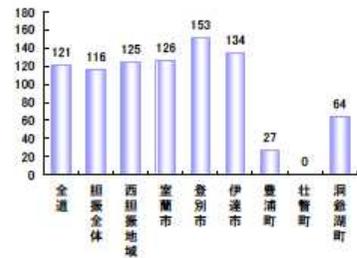
9. 教育の現状

西胆振の教育の現状についてまとめた。

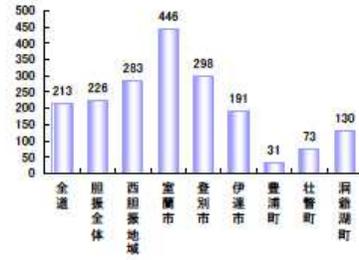
生徒数の現状

1校当たりの生徒数は、西胆振全体としてみた場合、全道と比較して、やや多い点の特徴。室蘭市において1校当たりの生徒数が多い状況。

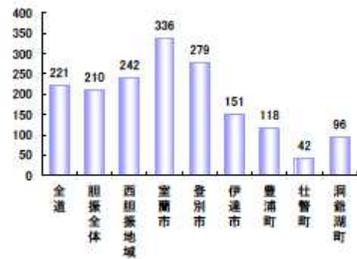
【幼稚園】1校当たり生徒数：人



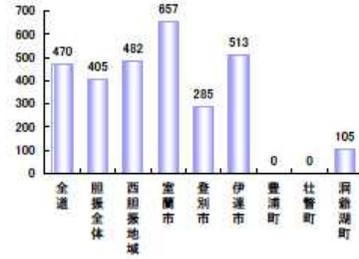
【小学校】1校当たり生徒数：人



【中学校】1校当たり生徒数：人



【高等学校】1校当たり生徒数：人

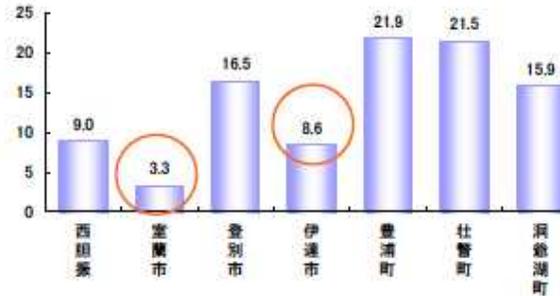


資料：北海道統計協会「平成19年北海道市町村勢要覧」。
注：数値は平成18.3.31の値。

通学の流動状況

6市町における15歳未満の通学者における他市町村への通学割合は、豊浦町、壮瞥で2割を超えている。一方、室蘭市、伊達市は比較的低い水準。豊浦町、壮瞥町、洞爺湖町の町外通学者の多くは伊達市に通学。

他市町村への通学割合：%



資料：総務省「平成17年国勢調査」。
注：他市町村への通学割合は、15歳未満通学者数に占める他市区町村への通学者の割合(%)

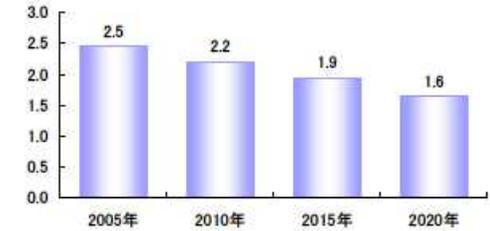
	通学者総数	市内			市外	
		市内	市内	市内	うち室蘭市へ	うち伊達市へ
室蘭市	11,522	11,138	384	—	80	—
登別市	6,504	5,433	1,071	978	8	—
伊達市	4,180	3,822	358	264	—	—
豊浦町	465	363	102	19	76	—
壮瞥町	307	241	66	3	49	—
洞爺湖町	1,162	977	185	39	130	—

資料：「平成17年国勢調査」より作成。
注：通学者総数は15歳未満の通学者総数で、常住地ベース。

年少人口の将来予測

西胆振の年少人口(14歳以下人口)は2020年には1万6千人に減少することが予測される。

年少人口：万人

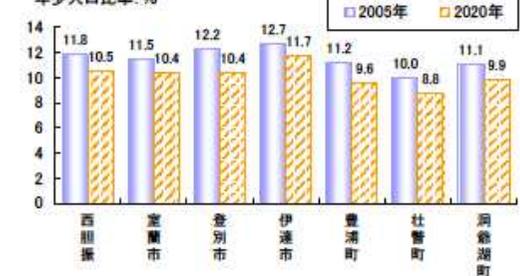


資料：北海道未来総合研究所「北海道180市町村の人口シミュレーション」。
注1：年少人口は14歳以下人口。
注2：2010年以降はコーホート要因法による予測値。

6市町年少人口比率の予測

各市町の年少人口比率は10年後の2020年には1割前後に減少する見込み。

年少人口比率：%



資料：北海道未来総合研究所「北海道180市町村の人口シミュレーション」。
注1：年少人口比率は総人口に占める14歳以下人口の割合(%)。
注2：2005年は総務省「国勢調査」より作成。2020年は予測値。